

【今日の説教から】

父の溺愛を受け、他の兄弟たちの嫉妬を買うヨセフ。そしてついに親の目を離れたドタンの地で辛うじて殺される事だけは避けられましたが、ヨセフはエジプトへ奴隷として売られることとなりました。

「主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、その主人エジプトびとの家におった」。

様々な手の働きによって翻弄されるヨセフでしたが、神様は彼と共に、彼の近くに、ご一緒にいてくださいました。

その幸運と、主が彼と共におられ、彼の手のすることを主が栄えさせられるのを見て、ヨセフの主人は彼にすべてを任せ(与え)ました。

しかしポテパルの妻の虚偽により、主人は彼を牢に投げ入れ(与え)ます。

折角売られていった地で得た千載一遇のチャンスを、自分の落ち度でないことのゆえに失い、また暗闇に逆戻りするという事は、ヨセフにとってどんなに痛手だったでしょう。

しかしそれでも、その場にも主は彼の近くに、彼と共におられ、神様は看守長の好意を彼に与え、看守長は全ての囚人と、看守長の仕事とを彼に委ね(与え)ました。

神様はヨセフと共におられ、彼の手の業を祝し、導き、恵みと導きを絶えず与えてくださいました。

神様はヨセフと共におられ、彼を栄えさせられました。

神様は私たちのそば近くにおられ、私たちを祝し、私たちに良き働きを与え、手の業を祝し、栄えさせてくださることを信じましょう。

皆さまおはようございます。暖かくなるかなるかと思いきや、雪はそれほどではなかったですが、気温は変わらずにマイナス4度、5度、6度という気候を過ごしてまいりました。変わらずお元気にお過ごしでしたでしょうか。火曜日ころには最低気温がマイナス8度にもなるかという予報もありますので、どうぞお気を付けいただきたいと願い、ご無事をお祈りいたします。

ただ今私たちは創世記を読み進めておりますが、ヨセフの人生も波瀾万丈です。

父の溺愛、兄たちの嫉妬、殺意から逃れるも、奴隷として遠くエジプトに売られ、言葉の通じない異国の地で一から始めるという事、それはそれは並大抵のことではなかったはずで、長袖の着物を着せてもらって、かわいい、かわいいと溺愛して育てられた、父ヤコブの年寄り子、「ヨセフは十七歳の時、兄弟たちと共に羊の群れを飼っていた。彼はまだ子供で…」とあった彼は、一人ぼっちの異国の地、もてはやされていたのに今は奴隷の身。言葉も通じず、どうやって生きていくのでしょうか。

39:1 さてヨセフは連れられてエジプトに下ったが、パロの役人で侍衛長であったエジプトびとポテパルは、彼をそこに連れ下ったイシマエルびとらの手から買い取った。

兄弟たちの手によって虐げられ、奴隷として売られ、イシマエルびとらの手に渡ったヨセフ。そしてポテパルのもとに。思えばいろいろな手を通して彼はここまでやってきました。

ヨセフは、後述にもありますが、「姿がよく、顔が美しかった」とあるせいかどうかは分かりませんが、もちろん神様の深いお導きの中、驚くべきことにエジプトの王パロの侍衛長であったエジプトびとポテパルのもとへと売られて行きました。

39:2 主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、その主人エジプトびとの家におった。

しかしそんなときにも、こんなときにも、主がヨセフと共におられました。主がヨセフと共に、一緒に、そば近くにいてくださいました。彼はその土地のエジプトの人ではありませんでしたが、彼は神様が彼と共にいるところの人でした。その人は、どこに、どんなふうを送られても、虐げられても、住む場所が変わっても、境遇が変わっても、彼は神様が共にいるところの人なので、状況には左右されないのです。神様が共におられる。ご一緒に、そば近くにいてくださる人というのは、何と幸いなのでしょう。彼は幸運なものとなり、神様は彼を繁栄させ、成すことを成功させ、万事をうまく計らってくださいます。

39:3 その主人は主が彼とともにおられることと、主が彼の手のすることをすべて栄えさせられるのを見た。

39:4 そこで、ヨセフは彼の前に恵みを得、そのそば近く仕えた。彼はヨセフに家をつかさどらせ、持ち物をみな彼の手にゆだねた。

ヨセフの主人もまた、ヨセフが神様と共にあることを見ました。そして神様が彼の手を通して祝福と繁栄に導いておられるのを見て、ヨセフはポテパルの好意を得、主人はヨセフの手にすべての彼の持ち物を委ねました。そのすべての持ち物を司る権能をヨセフは授かったのです。この「授ける」「与える」という言葉が以降何回も出てきます。ヨセフは多くを失い、子としての身分も持ち物もすべて失い、奴隷となり、自分自身売られるものとなり、従って、自分自身の権利も自分にはないほどにすべてを失いましたが、神様は彼と共におられ、様々の者を与え、彼を繁栄させ、祝して彼の道を開かれるのです。彼には神様の祝福と恵みと守りがありました。それは彼に繁栄をもたらします。その御業は、彼がどん底の時に始まり、その御業は彼のうちに確かに実現するのです。

39:5 彼がヨセフに家とすべての持ち物をつかさどらせた時から、主はヨセフのゆえにそのエジプトびとの家を恵まれたので、主の恵みは彼の家と畑とにあるすべての持ち物に及んだ。

39:6 そこで彼は持ち物をみなヨセフの手にゆだねて、自分が食べる物のほかは、何をも顧みなかった。さてヨセフは姿がよく、顔が美しかった。

そしてヨセフのその家のための働きのゆえに、神様はヨセフがそこにいるがゆえに、もしくはそこにいるヨセフのために、その家を祝福されました。

創世記 12 章のアブラハム契約を思い起こします。

12:1 時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」。

「さてヨセフは姿がよく、顔が美しかった」と、さらりと書いてありますが、ここから端を発して騒動が湧き起こります。ヨセフの主人ポテパルの妻がヨセフを誘惑し始めるのです。

39:7 これらの事後、主人の妻はヨセフに目をつけて言った、「わたしと寝なさい」。

39:8 ヨセフは拒んで、主人の妻に言った、「御主人はわたしがいるので家の中の何をも顧みず、その持ち物をみなわたしの手にゆだねられました。

39:9 この家にはわたしよりも大いなる者はありません。また御主人はあなたを除いては、何をもわたしに禁じられませんでした。あなたが御主人の妻であるからです。どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができるでしょう」。

39:10 彼女は毎日ヨセフに言い寄ったけれども、ヨセフは聞きいれず、彼女と寝なかった。また共にいなかった。

39:11 ある日ヨセフが務をするために家にはいった時、家の者がひとりもそこにいなかったのもので、

39:12 彼女はヨセフの着物を捕えて、「わたしと寝なさい」と言った。ヨセフは着物を彼女の手に残して外にのがれ出た。

39:13 彼女はヨセフが着物を自分の手に残して外にのがれたのを見て、

39:14 その家の者どもを呼び、彼らに告げて言った、「主人がわたしたちの所に連れてきたヘブルびとは、わたしたちに戯れます。彼はわたしと寝ようとして、わたしの所にはいったので、わたしは大声で叫びました。

39:15 彼はわたしが声をあげて叫ぶのを聞くと、着物をわたしの所に残して外にのがれ出しました」。

39:16 彼女はその着物をかたわらに置いて、主人の帰って来るのを待った。

39:17 そして彼女は次のように主人に告げた、「あなたがわたしたちに連れてこられたヘブルのしもべはわたしに戯れようとして、わたしの所にはいつてきました。

39:18 わたしが声をあげて叫んだので、彼は着物をわたしの所に残して外にのがれました」。

39:19 主人はその妻が「あなたのしもべは、わたしにこんな事をした」と告げる言葉を聞いて、激しく怒った。

39:20 そしてヨセフの主人は彼を捕えて、王の囚人をつなぐ獄屋に投げ入れた。こうしてヨセフは獄屋の中におったが、

39:21 主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。

折角神様の祝福のうち、神様がそば近くにおられ、言葉やら、作法やら、人間関係やら、仕事やら、長い長い間の苦労を経てその座に上り詰めたというのに、どうしてこんなことが起こるのでしょうか。神様がそば近くにいてくださるのなら、こんな誤解は生まれないはずなのではないのでしょうか。神様がヨセフの不遇を顧みて、彼の手の業を祝し、繁栄させ、今の地位があるのなら、どうしてこのようなショッキングな出来事が起こるのでしょうか。彼は何も悪いことをしていないのに。

ふとイエス様のお苦しみが思い出されます。

イエス様は天の座を自らお捨てになり、人となって下られました。人々から捨てられ誤解され、何も悪いことをしていないのに、善いことをして、救いの言葉と業とを行っただけなのに、イエス様は十字架につけられ、命までも奪われました。イエス様は不条理をなめ尽くされましたが、それは私たちの救いのためでした。

39:20 そしてヨセフの主人は彼を捕えて、王の囚人をつなぐ獄屋に投げ入れた。

ヨセフの主人ポテバルは、怒りのうちに彼の身を牢獄に与えます。また「与える」という言葉が出てきました。しかしこの「与える」という言葉は彼にとっては全く良い意味を持ちません。

ヨセフが苦しみ、売られ、そこでもまた苦しんで牢に入れられるという事は、考えられないひどい苦しみですが、私たちは知っています。その苦しみによって彼の通路が前に前にと切り開かれていくという事を。そしてその苦しみは、悲惨や失意には終わらず、希望と救いへ

とつながっていくのです。

ローマ 5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

5:7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

39:21 主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。

39:22 獄屋番は獄屋におるすべての囚人をヨセフの手にゆだねたので、彼はそこでするすべての事をおこなった。

39:23 獄屋番は彼の手にゆだねた事はいっさい顧みなかった。主がヨセフと共におられたからである。主は彼のなす事を栄えさせられた。

主はそれでもヨセフと共におられます。彼と一緒に、そば近くにおられます。そしていつくしみとご愛顧と、主の変わらないご真実の御手を伸ばされ、彼に向けての看守長の好意を彼に「与えられる」のです。そして看守長は全ての囚人を彼の手にゆだね「与える」のです。こうして彼の手の業はまた栄えるのです。

私たちのうちにどのような困難の浮き沈みがあるのでしょうか。しかしその中にもある、神様の変わらないご真実に目を留めましょう。そしてこの与えられた不遇の、不条理の出来事の意味を考えるのではなくて、神様がいつも与えようとしておられる新しい良き出来事を信じて、そしてその延長線上にある栄光と繁栄と祝福に輝く結末を信じて、日々邁進し、前進していきたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

兄弟たちの嫉妬と殺意の悪しき手により奴隷として売られたヨセフは、彼と共におられる神様のご愛顧にて、手の業を祝され、主人の仕事の一切を任されることになり、祝福と成功を得ますが、あらぬ疑いをかけられ、彼も失脚しました。彼の苦しみはどれくらい深かったのでしょうか。しかし神様は変わらずに彼と共におられ、監守長の好意を授けられ、彼の手に再び数多くの仕事をお任せになりました。どんなときにも変わらず支えてくださる御手に感謝します。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン